

平成 28 年度 県立上溝高等学校不祥事ゼロプログラム検証結果

県立上溝高等学校は、不祥事発生をゼロにすることを目的として、前年度の取り組み、点検を踏まえ、平成 28 年度の不祥事ゼロプログラムを定め、次のとおり取り組んだ。

課題	目標	行動計画
①公務外非行の防止 (法令遵守意識の向上)	○法令を遵守し、公私の別を明らかにして、生徒・保護者・県民の信頼を得る。	○教職員は、社会から注目されている職業であることを常に自覚し、行動した。 ○教育公務員の立場を常に自覚して生徒・保護者に対して職責を果たす意識の強化を図った。 ○事故防止会議等において啓発資料をもとに法令遵守意識の向上を図った。
②セクハラ、わいせつ行為の防止	○人権感覚を身につけ、セクハラ、わいせつ行為の発生を未然に防止する。	○受け手が不快に感じるかどうか判断基準となることを理解し行動した。 ○生徒への校内人権相談窓口の周知方法を工夫し、活用を図った。 ○携帯電話や電子メール等による不適切な連絡行為防止の徹底を図った。
③体罰、不適切な指導の防止	○生徒の人権を尊重し、体罰や不適切な指導の発生を未然に防止する。	○教職員全員を対象に相手に好印象を与える所作に係る研修を実施した。 ○複数の顧問で指導にあたった。 ○教員・保護者の連絡を密にし、情報を共有した。 ○生徒指導等の指導状況は常に記録した。 ○生徒の携帯電話番号を入手するときには所定の手続きを踏んだ。
④会計事務等の適正執行（備品の現物照合、公費、私費、現金管理）	○備品管理の適正化を推進する。 ○不適正経理を防止する。 ○不適切な現金取扱を防止する。	○備品の現物照合を複数の人員で確実にを行った。 ○会計事務等の適正執行の徹底を図った。 ○私費会計基準に則った会計処理の徹底を図った。 ○年度当初に教職員全員を対象に職場研修を実施した。 ○定期的に自己チェックを行った。 ○保護者の負担軽減を考慮に入れて会計事務を行った。
⑤個人情報等の管理・情報セキュリティ対策（パスワードの設定、誤廃棄防止）	○個人情報の流出を未然に防止する。 ○外部記憶媒体の紛失等を防止する。 ○インターネットの適正利用を図る。	○学校が扱う個人情報について、その範囲を知る。 ○鍵のかかる場所に保管し定期的にチェックした。 ○保管期間の終了を複数で確認の上、廃棄した。 ○個人情報を持ち出すときは所定の手続をした。 (携帯電話等への登録も同様とする。) ○私物のUSBメモリの持ち込み禁止、貸出しUSBメモリの管理を徹底した。 ○定期的にチェックを行い、啓発に努めた。
⑥交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	○交通事故の発生を未然に防止する。 ○酒酔い、酒気帯び運転を防止する。	○「交通事故防止」「飲酒運転は同乗者も免職」等の注意を徹底した。 ○教職員全員を対象に職場研修を実施し、交通安全意識の向上を図った。 ○日頃から相模原市内を中心とした事故多発地点の情報共有し、職員相互の注意喚起を図った。

		○定期的に自己チェックを行った。
⑦業務執行体制の確保等	○文書類の整理・保管を徹底する。 ○危機管理意識の徹底と不祥事防止を図る。 ○業務遂行の無理をなくし、適正な業務遂行環境を確立する。	○机上、引き出し、デスク周辺の整理整頓に努めた。 ○文書保管キャビネット等への保管を徹底した。 ○進行管理のもと起案・決裁等を確実に行った。 ○周囲に知られたくないという“情報ブロック意識”をなくし、確実に情報共有する職場環境をつくった。 ○管理職・総括教諭への報告・連絡・相談体制、協力体制を確立した。 ○教職員全員を対象にして職場研修を実施した。
⑧調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止	○調査書・通知表作成・点検、成績処理に係るマニュアルに基づき、適切な処理を徹底し事故を未然に防止する。	○調査書・通知表及び成績処理マニュアルに基づき作成するとともに複数の担当者による点検に加え点検回数を増やし点検の精度をあげた。 ○点検は、数字を見るだけでなく、個々の生徒を思い浮かべながら行った。 ○皆勤者の欠時数をチェックするなど“異常値”を確認した。 ○過去の事件事例を参考にして、発生した経緯を検証し、今後に生かした。
⑨試験問題の作成及び試験実施	○過去に出題した問題と同一にならないようにするとともに、実施上のトラブルを未然に防止する。	○定期試験は、毎回新規に作成した。 ○教科担当者と試験監督者は問題用紙や解答用紙の印刷状態を確認した。 ○問題、解答用紙は鍵のかかる場所に保管した。 ○試験開始後教室前の廊下で、問題解答用紙を準備して待機し、不測の事態に備えた。 ○試験終了時に試験会場で受験者数と回収した解答用紙の氏名を出席番号順に枚数を確認した。 ○答案用紙は、教科担当に手渡した。
検証及び評価		
<p>上溝高等学校としての不祥事ゼロプログラムを全教職員の協力、理解のもとで策定した。事故防止会議では管理職が中心となって行ったものに加え、各グループが輪番で業務の中で事故につながりかねないものを題材に事故防止会議を行い、一人ひとりの事故防止への意識向上を図れた。また日常的に新聞記事や啓発資料を用いて不祥事防止を徹底した。今後も不祥事防止に取り組んでいく。</p>		
実施結果		
<p>検証を踏まえ「実施結果」を取りまとめのうえ、教育局行政課の求めに応じ、同課に送付する。</p>		
事務局		
<p>プログラムの策定及び実行の具体的手続きについては、事故防止会議がこれを行った。</p>		